



特集

会津大学の産学連携について

- 地方経済の復活 ————— P.2
「うつくしま次世代医療産業集積プロジェクト事業」
仮称；Medi-factory：Healthcare Incubation in
Fukushima ————— P.3
会津大学における共同研究 ————— P.4

- 大学の知的財産権活動 ————— P.5

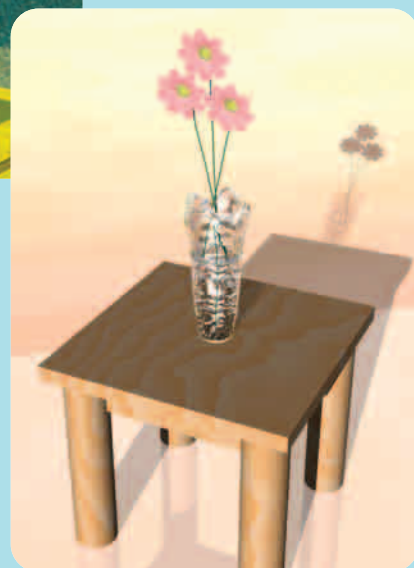
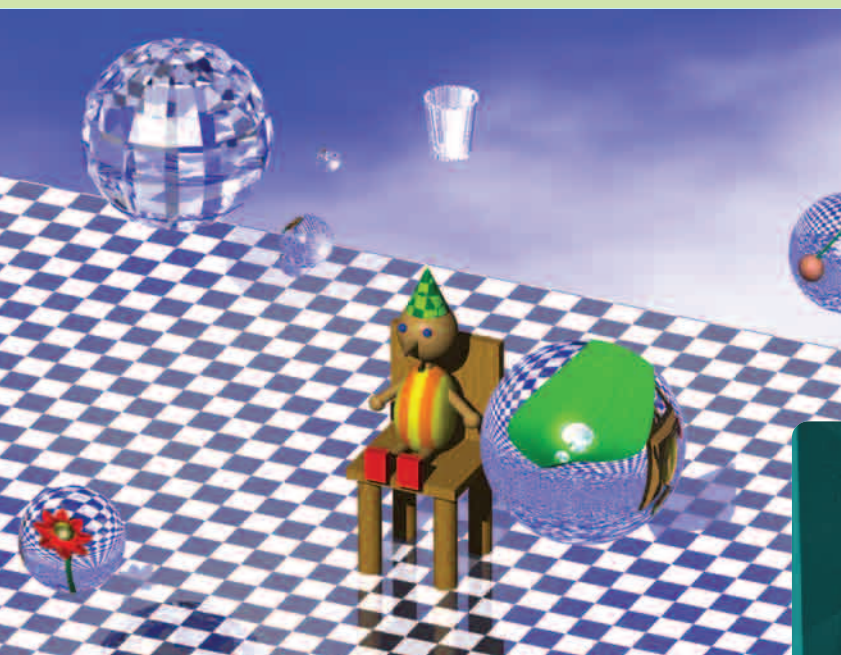
産学イノベーションセンター研究開発室から

- サクシード株式会社 ————— P.7

- 会津大学発ベンチャー企業紹介 ————— P.10
SORA有限会社

UBIC-INFORMATION

- 今後の講習会の予定・ご利用案内 ————— P.12



会津大学産学イノベーションセンター

〒965-8580 福島県会津若松市一箕町鶴賀字上居合90

TEL：0242-37-2776 FAX：0242-37-2778

E-Mail:ubic-adm@ubic-u-aizu.pref.fukushima.jp

会津大学産学イノベーションセンターのインターネットホームページアドレス
<http://www.ubic-u-aizu.pref.fukushima.jp>

平成16年度
3DCG作成セミナー
受講生作品

会津大学の産学連携について

地方経済の復活

現在の厳しい日本の経済状況下で、都市集中の動きが益々強まっており、地方は、高齢化と地方への補助金の見直しも加わり、多くの課題を抱えつつあります。

そのような中で、地方経済についての悲観的な見方が増えています。

しかし、私は地方の先行きについて中長期的に考えるとそれほど暗い話だけではないと思っています。これからの世界の最大の問題は地球温暖化であり、その影響は都会に顕著に出て来うと考えています。今年度の気候は明らかに不順で、国では地球シミュレータという世界最高速の計算機を使って気候の将来予測を行っていますが、そこで研究を行っている専門家はとうとう地球はグローバルな温暖化のサイクルに入ってしまったと考え始めています。これが正しければ、様々な対策をしても元に戻るには500年かかるのではないかと危惧されます。それに加えて、東京では品川、新橋を中心に巨大なビルが次々と作られており、それらのビル群が東京湾の海風を遮って東京のヒートアイランド現象を増幅させています。そのため、今後の都会の生活環境は悪化すると思われるのに、都会では現在の便利さを追求して増々都心への集中が進んでいます。このヒートアイランドの傾向と前述の500年継続するであろう地球温暖化との相乗効果で、都会への一極集中の動きは近い将来無くなるのではないかと考えられます。

一方地方では、人々の価値観が多様化する中で、地域の自然や伝統ある文化を再評価する動きがあります。スケールの大きさでは世界遺産などがありますが、身近な話題としては、最近の中年女性の関心事が韓国の男優から移り始めて、例えば地方の雛人形を楽しむツアーが評判を得つつあるとの話があります。土地ごとに風情の違う雛祭りや、それぞれ個性的な雛人形を、子育ても終わり、時間にゆとりが持てるようになった人たちが、子供のころから憧れだったお雛様を見て旅行するというツアーだそうです。JR東日本では、山形県・庄内地方で美術館に展示された雛人形を訪ねるコースに定員の4倍の応募があったとのこと。また、私は会津の漆器店で、非常に情緒のある雛人形を見つけた経験があります。その顔は、現在大ヒットのアニメ映画「ハウルの動く城」の宮崎駿監督の前作「もののけ姫」の登場人物の、あののっぺりした顔によく似ていました。ことによると、「もののけ姫」の参考になったのではないかとという地元のお話も聞きました。

会津地域のこのような長年育まれた伝統的な文化がある中で、会津大では一昨年の会津大の創立10周年で、若者が白虎隊を題材にしたアニメ「エンドクレジット」を作成し、上映されました。学生たちの作品で、その時はまだ完成されていなかったのですが、丁度今年になって完成を無事迎えました。日本の武士道を題材にしたという点では、昨年会津と福島で行われたスターウォーズ展も同じです。

私は、これから次々とこのような会津の伝統文化と若者の発想が融合された作品が世に問われる時代が来るのではないかと期待をしています。

産学連携センター（UBIC）は、このような新しい脈動を支援するセンターとして、大学教員と地域ベンチャーとの連携、最新研究機器の提供を積極的に図って行きたいと考えています。

この3月には、UBICの主要な研究施設であるモーションキャプチャーシステムが最新機器に更新されます。是非、地方の新しい文化の創出や経済活動を活発にするために、皆さんが当センターの活用を積極的に進めて頂くことをお願いいたします。



会津大学副学長・産学イノベーションセンター長
角山 茂章

「うつくしま次世代医療産業集積プロジェクト事業」

仮称；Medi-factory：Healthcare Incubation in Fukushima

福島県においてヘルスケア産業のインキュベーションの取り組み（仮称：メディファクトリー構想）を開始します。

1. イノベーションとヘルスケア

イノベーションはあらゆる領域で必須の組織活動で、起業、産業集積の源泉となります。新商品開発の「プロダクトイノベーション」、業務改善などの「プロセスイノベーション」の両者が組織の競争優位性を確立するために重要なのです。

ご存知のようにヘルスケア領域は21世紀の有望市場です。高齢化による需要が爆発し、しかもサービスの効率化が求められています。また個人の検査値や健康情報などIT技術との相性がよく、しかもサービスにマンパワーが必要で地域の雇用が発生します。

現在、薬剤、医療機器開発でグローバルな競争が行われており、しかし対象が生身の人間なので個人情報保護法、PL法など個人保護の観点からも高い専門性と倫理的行動が求められます。また一般の商品開発に比べ、治験、国への許認可など専門的知識と大きな時間と資金が必要です。ヘルスケアイノベーションの領域は、参入障壁の高い領域なのです。逆にそのノウハウを獲得、蓄積できれば、大きなビジネスチャンスとなるのです。実際CRO（Clinical Research Organization）などの治験会社は、高い成長性と大きな利益を上げています。

2. 福島の地域優位性

福島には、全国でも数少ない県立の医大があり、ITに特化した県立の会津大学、医用工学が盛んな日本大学工学部があります。実際会津大学では携帯電話による遠隔生体モニタリング、日大では乳がんセンサーなどの開発が進んでいます。また医療産業集積の基盤となるJ&J、オリンパスなどの世界的企業、製薬や検査薬などの医療企業が数多くあるのです。さらに福島は面積が広く、地域が散在し、しかも人口当たりの医師の数が少ないという欠点が、遠隔医療などの医療現場での技術開発の要求が生まれ、ヘルスケアイノベーションにとっては有利な点とも成り得るのです。

3. 国内外事例とその検討

私たちはこれまで米国のカルフォルニア州やフィンランドのメディポリス、韓国のウォンジュや、神戸市、静岡県などの医療産業の集積地域の視察、研究を行ってきました。そして世界的な商品開発競争の中、強力な商品開発能力がある反面その後治験、承認、マーケティング等がすっぱり抜けていることが解りました。実際海外で開発された医療機器を日本に導入したいが、アライアンスを含めて相談に乗って欲しいと話もありました。

4. メディファクトリー実現へ向けての取り組みとその課題

医療機器の治験、承認、販売の経験を蓄積し、洗練化する仕組みをメディファクトリーと呼び、世界的な医療産業集積地の基盤となる事を目指します。福島県では平成17年度「うつくしま次世代医療産業集積プロジェクト事業」予算として、総合支援窓口等の整備、研究開発支援、臨床試験支援、創業支援など医療分野の特殊性に対応した研究から事業化までのステージごとに必要な支援を行います。医療産業に関わる県内外の企業、人の交流を進めるフォーラム、研究会、医工連携の研究費補助、実用化に向けての実証実験、臨床試験の支援を行うことで、医療と工学、ヘルスケアビジネスに関わる人材の確保、育成をします。

最後にイノベーションは、高度な技術開発、画期的な商品開発だけでなく、必要は発明の母と同じく現場のニーズに基づく日常業務の改善が極めて重要です。例えば障害者のスプーンや在宅療養中の世話の方法の工夫もイノベーションなのです。メディファクトリーは、アイデアを投げると商品になって出てくる、そんな気軽な仕組みもメディファクトリーで大切です。その結果、ある福島のカルチャーとしての「どこでも、誰でもイノベーション」の精神を作り上げることが出来ればよいと考えています。皆様のご支援を期待しています。



会津大学産学イノベーションセンター
客員教授 田中 伸明

会津大学の産学連携について

会津大学における共同研究

2003年2月に会津大学に着任して以来、私は企業との共同研究の件数を増やすことを最重点課題として取り組んで来ました。ここでは共同研究がどのような流れに沿って行われるかを紹介します。

会津大学における共同研究は企業のニーズ発掘から始まります。まず、企業を個別訪問し社長、技術部長クラスにインタビューして企業のニーズを発掘します。あるいは企業からの技術相談を機に企業の抱える技術的問題点を把握します。技術相談では相談の内容を聞くために企業を訪問することを原則としています。つぎに、技術的問題を解決するのに一番適した教員を学内から選び出し、教員に問題解決の相談を持ちかけます。今まですべての場合、教員は喜んで相談に乗ってくれています。今度は企業と教員とのお見合いの設定です。お見合いは会津大学で行うことが多いです。この席で教員に技術的問題点を理解してもらいます。技術的問題点は企業の最高機密に属する場合が多いので、企業の皆様は機密漏洩が心配かも知れませんが、会津大学の教職員は公務員、その心配は無用です。この席で問題解決の糸口、方法が教員から提示され、問題が解決に至る場合があります。問題解決に理論計算、コンピュータシミュレーション、実験などが必要となる場合には、企業に対し共同研究を提案することとなります。どのような手順で問題を解決するか、解決にはどの位の時間と費用が必要となるか、会津大学と企業との責任分担等々を記した共同研究提案書を企業に提出します。さらに、提案書と同時に共同研究契約書も企業に提示します。企業が提案書と契約書を受け入れると共同研究契約締結の段階に入ります。会津大学は企業から共同研究申込書を受け取ると、共同研究等受入審査委員会を開き、ここで共同研究受入れの可否を判断します。その後契約が締結され、共同研究費用を支払っていただきます。研究が始まると進捗状況報告会が定期的で開催されます。平成16年度には福島県内外の企業と7件の共同研究が進行しました。共同研究費用は7件で540万円です。現在までに福島県内企業2社との共同研究が終了し、1社は共同研究の成果として得られた設計指針に基づき新しい装置を試作・評価することとなり、もう1社は共同研究の結果開発した新しいシステムを顧客に導入し試験する予定です。2社とも共同研究の結果に満足しており会津大学の共同研究担当教員も共同研究の結果が企業で有効に利用されていることに満足しています。会津大学は共同研究相手企業、共同研究内容は相手先企業の承認がない限り外部には公表しませんが、この2社には新製品が会津大学との共同研究の結果であることを世の中に宣伝するようお願いしています。

共同研究を難しく考えることはありません。UBICまで気軽にご相談ください。



産学連携コーディネーター
本杉 常治

大学の知的財産権活動

2002年11月27日に成立した知的財産基本法に基づき、これからの日本は知的創造サイクルの活性化を行なう知的財産立国の確立が国家目標として掲げられました。

天然資源の少ない日本ではエネルギーはほぼ100%輸入に依存しています。食料も6割が輸入です。こうした中では頭脳でもって国際競争に打ち勝っていくしか道がありません。知的資産を戦略的に生かしていこうとするのが知的財産基本法の目的です。

■ 大学の使命

大学は「教育」と「研究」を二本柱にしてきました。加えて「研究成果の移転による社会貢献」を第三の柱にすることになったのです。つまり大学の研究成果を学会活動などによる学術的な貢献に加え、知的財産を取得して産業界に貢献しようとするものです。

従来からも大学の成果が企業によって産業の発展に役立っているケースや、企業からの委託により商業化を最終目的にした研究も数多くありました。しかしもっと意識的に研究成果の社会貢献を図っていこうとしています。これは大学における研究には社会に役立つものが、もっとたくさん埋まっているという認識があるからです。

■ 知的財産活動とは

知的財産活動には大きく「知的財産の創造」、「知的財産の活用」、「知的財産の尊重」の三つが上げられます。大学における知的財産活動もこれらの三要素が中心になります。

中でも「知的財産の創造」が第三の柱を実現するためには一番大切になります。「知的財産の創造」は研究の成果そのものともいえます。研究の成果を見つめなおすところからスタートします。

研究はある目的や課題があり、その課題そのものを分析、調査して現象や原因を追求することや、その課題をどのように解決すべきか、どのような方法があるかを比較し、最適なやり方を研究するなど様々なものがあります。

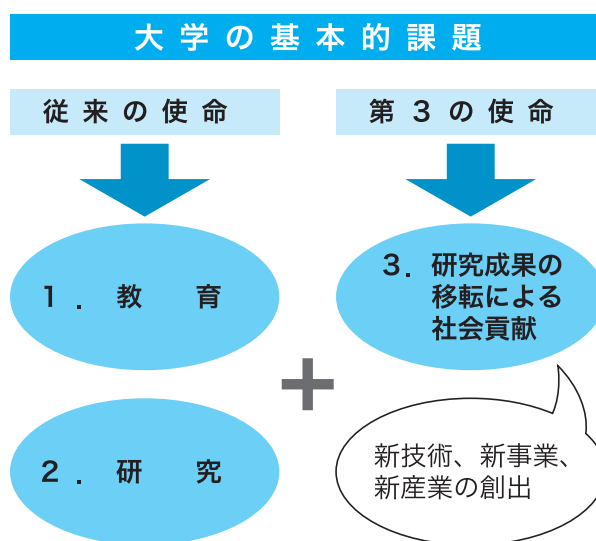
知的財産活動の「知的財産の創造」は、こうした研究の進め方と分離不可分な行動なのです。研究を進めることはイコール知的財産を創造することであるといっても過言ではありません。だから大学の研究者は研究をすることで、自然と知的財産を生み出してきていたのです。この知的財産を生かすことが求められているのです。

しかし、研究を粛々と進めていても知的財産に行き当たらないことが少なくありません。そこで、研究のある段階で知的財産を意識する活動を行なうのです。これはまず、研究の課題を今一度認識することから始めます。例えばある学会で発表する論文を見て、この研究の本来の課題は何か、何を追求しようとしているかを見直します。再認識ともいえます。

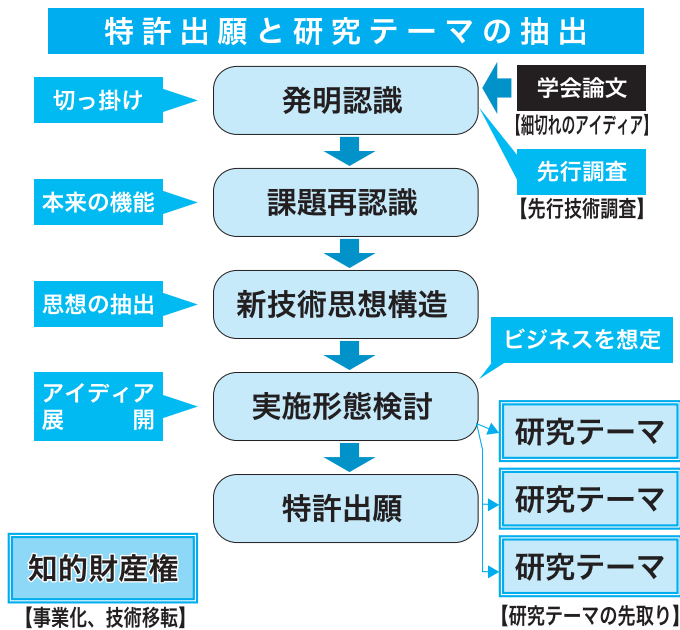
そして、課題を再認識したところで課題を解決するために研究した成果を書き出します。おそ



知的財産管理アドバイザー
重田 暁彦



大学の知的財産権活動



らくいくつかの解決策から今回の研究ではこうした側面に着目して研究を進めたという点が出てくるはずですが、しかし今回は検討しなかったが、他にもやり方があるとか応用分野がありそうだといった研究テーマも上げてみます。そうした未着手の研究テーマを上げることで、研究を再認識できるのです。知的財産のなかで特許は技術思想を保護するものです。こうした手段を経ることで研究成果を見つめ直し、本来の技術思想を抽出し、認識することができるのです。

こうした研究成果の技術思想化をすることで、新たな研究テーマが見つかるケースが少なくありません。研究の

本来の思想・思考活動を、知的財産活動を通して行なうことができるのです。こうしたアプローチは現在の学会や世間の研究動向に囚われなくて、真のテーマを見つけ、人がやらないオリジナルな研究テーマを見つけ出すことができます。オリジナルなテーマでオリジナルな解決法であれば苦もなく知的財産権を取得できます。

■ 教育の側面

教育は知識を学ぶことも大切ですが、物の考え方、現象の真の姿を捉える、つまり本質は何かを常に考えることです。こうした思考を学ぶことで、その適応範囲が広がります。まさに応用の利く人材の養成です。

これが知的財産を認識して、生み出す活動をすることにより自然と身につくのです。どのような現象であれ、社会的な仕組みや行政の仕組みであっても、必ず何らかの課題や目的があるはずですが。そうしたことは何のためにやっているか、本来なすべき課題や目標を認識する思考を身に付けることは、あらゆる人に求められる能力です。これからの人材には欠かせない考え方が知的財産活動を行なうことで学べるのです。

本来の姿の追求は、オリジナリティーの尊重にも結びつき、思考方法として身に付けることが大切です。

■ 社会貢献の側面

社会貢献で忘れてはならないことは、研究成果がどのような形で社会に受け入れられるかを意識することです。具体的にどのようなサービスやシステムが望ましいのか、具体的に商品化する際には阻害要因はないかしっかりと見極めることです。そうした観点を解決した研究成果を企業に示すことで、企業側もリスクを少なくして導入すべきかどうかの判断ができます。更に重要なことは研究成果が知的財産権として保護できているかどうかです。保護される可能性が少ない研究成果は企業としては導入に躊躇します。できれば他者の知的財産権に触れることがない品質保証を行なうため、研究を始める前、研究の途中、研究終了時点の適当な段階で、他者の知的財産権がないことを確認する特許調査の実行が知的財産活動では重要になります。 [以 上]



会社概要

名称：サクシード株式会社 SUCCEED CO.,LTD

本社 東京都中央区新川1-3-10 TEL:03-3553-1409 Fax:03-3553-1407 URL:<http://www.succ.co.jp/>

設立 昭和52年（1977年）4月1日

資本金 5,000万円

社員数 100名（男83/女17）

提案業

- ・ネットワークシステムの調査・提案
- ・パソコン機に関する調査、提案
- ・UNIX機に関する調査、提案
- ・並列汎用機に関する調査、提案

設計&開発業

- ・アプリケーションシステム
- ・通信制御システム
- ・LANシステム

教育業

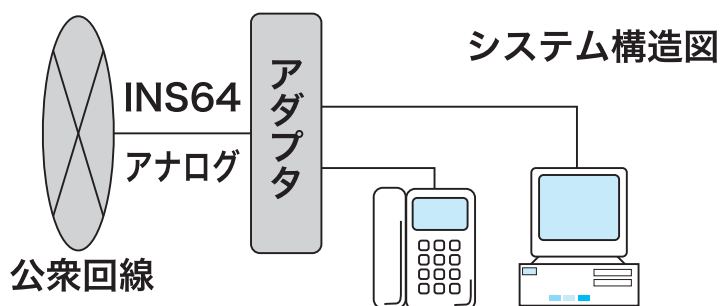
- ・パソコン機の関連教育
- ・UNIX機の関連教育

パッケージ商品

- ・ナンバーディスプレイ対応ソフト「見えTEL君2」（CTI活用システム）
- ・サーモグラフィ「熱画像処理プログラム」（医師診断補助システム）



「見えTEL君2」とは、電話が鳴ると同時に
「誰から」をパソコンに表示するソフトウェアです



産学共同研究

・会津大学 魏教授「ギガビットネットワークを活用した遠隔医療技術研究」



Daming Wei (魏 大名) :

Professor and director of Department of Computer Software,
the University of Aizu.

形状モデリング学講座 教授

産学イノベーションセンターでの研究開発について

弊社では、2000年より会津大学 魏 大名教授と、遠隔医療をテーマとした共同研究を行っています。2002年からは、『福島県知的クラスター形成事業』のプロジェクトとして、＜ホームケアサービス＞についての調査、研究、開発に着手しています。具体的には、「訪問看護サービス」業務のIT化を中心に、システム導入方法、UIの研究、セキュア対策、低コスト開発等がテーマとなっています。この3月にプロジェクト終了を迎えるにあたり、昨年11月よりトライアルと称したテストマーケティングを、地元の(財)竹田総合病院様にご協力頂き、「竹田訪問看護ステーション様」、「竹田ふれあい訪問看護ステーション様」の2か所にて実施しています。これは、看護師にPDA、PHS、携帯電話を訪問時にお持ち頂き、従来の紙ベース看護記録のかわりに、暗号化通信にて取得した看護データを参照(記録入力)して頂く試みです。看護情報をデータ化する事で、共有化が可能となり、場所や時間の制限がなくなる事から、緊急時対応の迅速化等に、大きく役立つものと考えています。また、データの二次利用が容易となる事で、業務の負担軽減に繋がると考えます。セキュリティ面では、暗号化通信、認証局による証明書の利用(PKI)、バイオメトリクス認証等を組み込む事で、安全面を確保しています。今回のテストマーケティング結果を元に、今後は、本システムをより柔軟的に利用して、在宅看護、介護、リハビリ、居宅サービスや介護施設等への利用が可能ないように再設計を行うと共に、医療過疎地への応用等についても研究して行きたいと考えています。

ホームケアサービスシステム概要図

訪問看護サービス



インターネット (PHS)

UBIC 研究開発室内

業務サーバー

状況確認

情報参照

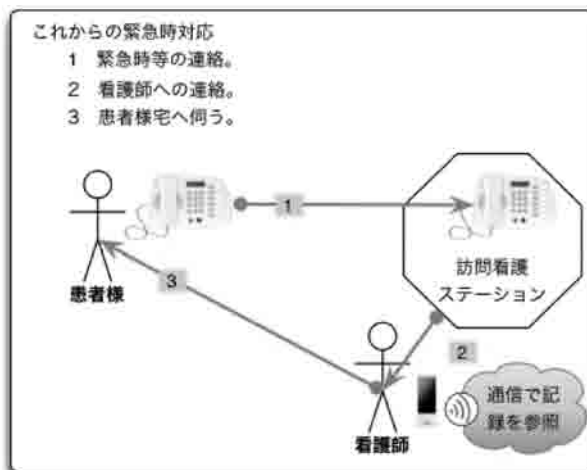
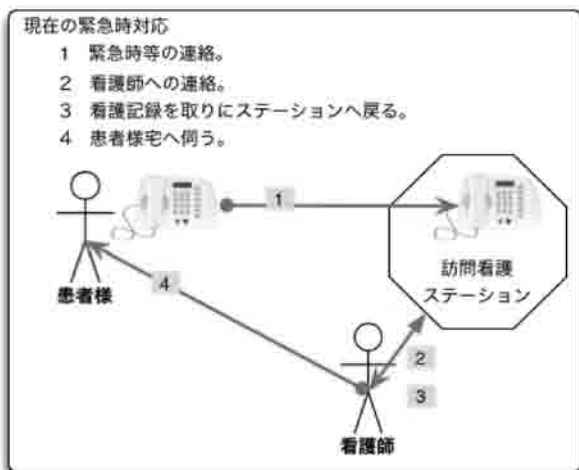
記録登録

いつでも
どこでも!

ご利用者様の看護情報参照

看護記録登録

*本プロジェクトは『産学官連携』として、会津大学様、福島県ハイテクプラザ様、(有)Gclue様、サクシー株式会社との共同研究となっています。



*システム導入における、緊急時対応のメリット予想図

会津大学発ベンチャー企業紹介

会社名 SORA有限会社
代表者 ミレンコフ・ニコライ、廣富哲也
住所 〒965-0872 福島県会津若松市東栄町9-15 NTT東栄町ビル1F
TEL : 0242-27-4076 FAX : 020-4664-3453 (D-FAX)
URL : <http://www.sora-art.jp/> Mail : contact@sora-art.jp

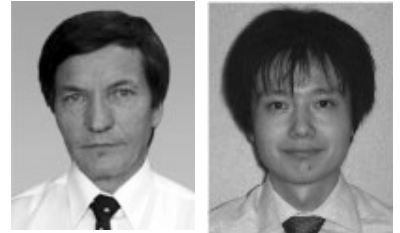
SORA有限会社の現状と展望

－現状－

会社設立と設立者

2004年7月20日に資本金300万円で会津若松市内に設立。

取締役兼CEOであるミレンコフ・ニコライは会津大学コンピュータ理工学部の教授であり、同じく取締役兼CEOである廣富哲也は会津大学の卒業生で、現在島根大学総合理工学部の講師である。



会社の使命

SORA「Software Of Rising Age」は「日本から新たな時代を切り拓くソフトウェアを創造する」という会社の志を象徴する。当社のソフトウェア製品は、利用者の能力や嗜好に応じて自在に変化する。情報技術による格差を生み出すことなく、さまざまな場面で一人一人が才能を存分に発揮することのできる環境を提供する。我々の使命は、人々の生活を支援する新たなソフトウェアを創り出すことである。

そらメール

当社の最初の製品であるマルチメディアコミュニケーター「そらメール」(図1)は、障害者、高齢者、子供を含む、言語の受容・表出に障害のある人やコンピュータ操作が苦手な人でも容易に楽しく電子メールをやり取りできるソフトウェアである。これを用いると、「どこで」「いつ」「だれが」「何をしている」「なぜ」「どのように」の質問に対応した枠組みに、画像つきの単語を当てはめた「ヒエログリフ文」を作成することができる。そのヒエログリフ文を電子メールで相手に送ったり、プリンタで印刷して見せたり、日本語に翻訳して読み上げたりすることで意思の伝達が可能である(図2)。作成時には、コンピュータが質問に対する答えの候補として1500以上の単語の中から文法的・意味的に正しい単語のみを選び、使われそうなものから順に提示する。使用者は提示された単語をいくつか選ぶだけで、さまざまな意思をすばやく、そして間違いなく表現することができる。その際、タイプミスや助詞の誤使用などを気にしなくても良い。また、操作にキーボードは必要なく、マウスやタッチパネル、ジョイスティック、スイッチなど、自分に合った入



図1 そらメールの一画面

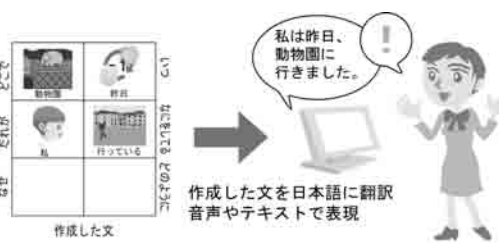


図2. ヒエログリフ文による意思伝達

に正しい単語のみを選び、使われそうなものから順に提示する。使用者は提示された単語をいくつか選ぶだけで、さまざまな意思をすばやく、そして間違いなく表現することができる。その際、タイプミスや助詞の誤使用などを気にしなくても良い。また、操作にキーボードは必要なく、マウスやタッチパネル、ジョイスティック、スイッチなど、自分に合った入

力機器を使うことができる。さらに、コンピュータに不慣れな人でもインストールやきめ細かな調整が簡単に行えるよう種々の工夫が用意されている。

そらメールの特徴

- ・人-コンピュータ間のインタラクションに用いられる自己説明的サイバーフィルムフォーマット
- ・ユーザの操作を誘導するスマートソリューション、およびシステムをカスタマイズするさまざまなレベルでの適応機能
- ・難しい作業を楽しくするようなスタイル
- ・音楽療法的効果のある音楽
- ・ヒエログリフ文を日本語に翻訳する機能
- ・システムのアウトプットと魅力を増大するスクリーンキャラクターの声



助成と賞

- ・福島県産業振興センターによる福島県知的クラスター形成事業では会津大学のミレンコフ教授を研究リーダーとする「次世代バーチャルシステムの開発」が平成14年度より3年間に渡って助成を受けてきた。平成16年度には、SORA有限会社も事業に参加し、F-コミュニケーションシステム製品化のための技術的ソリューションについて研究開発した。
- ・株式会社インテリジェント・コスモス研究機構による「平成16年度新事業創出グループ育成事業」に採択された。
- ・福島県産業振興センターによる「平成16年度福島県エンジェル助成事業」に採択された。
- ・平成17年1月に、会津若松市による「会津産IT技術」の認定を受け奨励賞を受けた。
- ・平成16年9月に、第6回ふくしまユニバーサルフェアにおいて「産業部門 優秀賞」を受賞した。

展示会参加

- ・平成16年9月 第6回ふくしまユニバーサルデザインフェア
- ・平成16年9月 地域発先端テクノフェア
- ・平成16年10月 第31回国際福祉機器展 H.C.R.2004
- ・平成16年11月 ビジネスクリエーション東北2004
- ・平成16年12月 ATACカンファレンス2004

ー将来ー

人々の生活の質を向上させるためのコミュニケーションおよびインフォメーションのインフラストラクチャを研究開発する。また、時間、エネルギー、感情、など、人のもつ資源を大切にすることを第一に考えるソフトウェアシステムを研究開発する。

会津大学産学イノベーションセンター UBIC INFORMATION

センターでは、下記の講習会を開催します。

1 産学イノベーションセンター講習会

3DCG作成セミナー 「Shade」

- ◆日時：平成17年7月26日(火)、27日(水)、28日(木)、29日(金)
4日間コース、各日とも10:00~16:00
- ◆場所：会津大学産学イノベーションセンター セミナールーム
- ◆講習内容：
＜概要＞
3次元コンピュータグラフィックス（3DCG）作成ツール「Shade」を使用して、簡易なCG映像制作技術を習得します。「Shade」の基本的な操作法を学び、実際にコンテンツを作成します。
- ＜内容＞
・CGとは (概要説明)
・3DCGの特長 (概要説明)
・モデリング (オブジェクトの作成)
・サーフェイス (反射や色の設定)
・レンダリング (画像生成処理)
・演習 (コンテンツ制作)
- ◆受講料：4,000円 ◆定員：20名
- ◆申込期限：平成17年7月1日(金)必着



- ◆講習内容：
＜概要＞
日ごろから、産学イノベーションセンターのシステムを使ってみたいとお考えの方、使ってみたくが使い方がわからないという方を対象に、センターのシステムの1日体験ができるという内容です。
- ・3DCGコース
Shadeを使って、3次元コンピュータグラフィックス作成を体験できます。
- ・デジタルビデオ編集コース
Premiereを使って、デジタルビデオから取り込んだ映像の編集ができます。
- ・デジタルカメラ編集コース
Photoshopを使って、デジタルカメラから取り込んだ画像を編集できます。
- ・ホームページ作成編集コース
ホームページビルダーを使って、ホームページを作成する一連の流れを体験できます。

などを予定しております。どうぞ、ご期待ください。

- ◆受講料：無料 ◆定員：未定 ◆申込期限：未定
- ※詳細につきましては、決定次第、別途お知らせします。

センターご利用案内

- ・会津大学産学イノベーションセンターは、産学連携のコーディネーターや共同研究や起業化のための各種情報を収集・発信し、地域・企業へ開かれた産学連携の総合窓口として機能しております。
- ・産学連携フォーラムの定例の実施により、企業と教員の交流の機会を提供します。
- ・ビジネススクールの開催などにより、起業化支援や経営者育成を行います。
- ・IT関連の各種講習会を開催し、地域の産業界にIT関連技術の普及啓発を図り、新たなビジネス展開と地域産業の振興を支援します。
- ・会津大学教員との共同研究開発を支援する施設としてご利用いただくための「研究開発室」や、一般の方に最先端のIT機器を開放しております。
- ・最先端のシステムを低料金でご利用いただけます。スクリーンを使ったプレゼンテーションやセミナーの開催、CGやサウンドの制作・加工・編集、人体の動きの3DCG化などにご活用下さい。

開館時間 午前8時30分～午後5時（夜間利用承ります。要予約）

休館日 土曜日、日曜日、祝祭日、年末年始

無料コーナー 一般見学、3D立体映像上映、ハイビジョン等上映、インターネット体験

施設使用料		
研究開発室	1室1年	420,000円
3Dシアター	1回	21,000円
セミナールーム	1回	21,000円
運動解析ルーム	1回	15,750円
サウンドクリエーションルーム	1回	1,050円
オーサリングルーム	1システム1時間	270円

※使用単位中「1回」とあるのは、次に掲げる時間です。
(1)8:30~12:30 (2)13:00~17:00 (3)17:30~20:30

メールリングリスト登録のおすすめ

会津大学産学イノベーションセンター各種講習会への参加・応募を希望される方は、住所・氏名、電話番号、E-Mailアドレスを明記の上、FAX、e-mail等でご連絡いただければ、詳細決定後、こちらからご連絡させていただきます。なお、メールリングリストへはUBICホームページからも登録できます。

イントラネット基礎セミナー

- ◆日時：平成17年9月14日(水)、15日(木)、16日(金)
3日間コース、各日とも10:00~16:00
- ◆場所：会津大学産学イノベーションセンター セミナールーム
- ◆講習内容：
＜概要＞
イントラネット構築のためのLAN等の基礎技術を習得します。ネットワーク技術や各種サーバの役割を学びます。
- ＜内容＞
イントラネットとは
・イントラネット ・グループウェア
LANの基礎技術
・構成機器 ・その役割 ・LANの仕組み
各種サーバの役割
・メールサーバ ・Webサーバ ・ネームサーバ
LANの管理と運用
・システム管理 ・ネットワーク管理 ・データ管理
- ◆受講料：3,000円
- ◆定員：20名
- ◆申込期限：平成17年8月26日(金)必着

プログラミング入門

- ◆日時：平成17年11月16日(水)、17日(木)、18日(金)
3日間コース、各日とも10:00~16:00
- ◆場所：会津大学産学イノベーションセンター セミナールーム
- ◆講習内容：
＜概要＞
Javaを通して、プログラミングの基礎を習得します。Javaの特長及びJavaプログラミングの基礎を理解し、Java2SDKのセットアップからJavaプログラムを実行するまでの一連の流れを学び、実際に簡易なJavaプログラムを作成します。
- ＜内容＞
・プログラミングとは (概要説明) ・Java言語の特長 (概要説明)
・プログラミング環境 (Java2SDK)
・Javaアプリケーションプログラミング
・Javaアプレットプログラミング ・演習 (簡易なプログラム作成)
- ◆受講料：3,000円
- ◆定員：20名
- ◆申込期限：平成17年10月28日(金)必着

2 ワンデー・トライアル

- ◆日時：未定
- ◆場所：会津大学産学イノベーションセンター セミナールーム

